

## ～「梅肉ポーク」を武器に6次産業化に挑戦～

名	称： <sup>あまくさばいにく</sup> 天草梅肉ポーク株式会社
事業名（年度）	：経営体育成交付金（平成22年度）
事業実施主体名称	： <sup>かみあまくさし</sup> 上天草市（熊本県）
内 容	：豚舎1棟（450㎡）、自動給餌機2台 他
事 業 費	：20,729千円（国費：5,922千円）

### 1 事業取組前の状況

#### （1）経営規模（平成21年度→現在（平成25年度））

- ア 肥育豚 （ 1,000頭 → 1,200頭 ）
- イ 繁殖雌豚 （ 100頭 → 120頭 ）
- ウ 繁殖雄豚 （ 7頭 → 8頭 ）

#### （2）経緯等

- ・ 他県の企業に数年勤務していた浦中<sup>うらなか</sup>一雄<sup>かずお</sup>氏（代表）は、故郷の農業者の高齢化や過疎化が進む中、父（<sup>みつよし</sup>光義氏）の養豚経営を継承した。みかん畑を切り開いて豚舎を建て、九州で最初のSPF豚（病原体を持っていない豚）の母豚30頭からスタートした。



△ 代表の 浦中 一雄 氏（右）と営業の 宏誌 氏

- ・ 「梅肉ポーク」と名付けた理由は、これまで大腸菌発生の予防は抗生物質などの薬品を使用していたが、もっと安全かつ安定的に豚を育てたいとの思いから、試行錯誤の結果、地場産の梅を発酵させた「梅肉エキス」を利用した飼育に行き着いたことに由来する。
- ・ 梅肉エキスを豚に与えてみると、下痢などの防止効果がある上、豚肉特有の臭みがなくなり、きめ細やかな肉質となった。
- ・ 紆余曲折はあったものの抗生物質を使う必要がなくなり、平成8年に肉質の改善に関する特許を取得し、さらに16年には、改良して2回目の特許を取得した。また、13年には、農業コンクールで「農林水産大臣賞」を受賞し、17年に「梅肉ポーク」の商標を登録し、経営の安定の1つの要因になった。



△ 農場から見た天草の海と島々の風景

## 2 取組の概要

- ・ 畜産では、家畜における病気の発症が特に致命的となるので、徹底した衛生管理が必要となる。このため、ケージをローテーションして豚同士の接触を減らし、「密飼い」を抑制することで防疫効果の向上が期待できることから、経営体育成交付金を活用して豚舎を整備することとした。
- ・ 繁殖を自前でやることで、豚の移動を出来る限り抑制し、病気の予防に心がけている。
- ・ 会社では、加工施設を自己資金で整備しており、ロース、ヒレ、バラといった各種の梅肉ポーク（精肉）の他、ウインナー等の加工・販売など6次産業化にも取り組んでいる。



△ 徹底的に防疫された畜舎

## 3 経営改善の効果

- ・ 豚舎を整備したことにより、出荷頭数が増加した。また、ケージのローテーションにより豚の死亡率が減少した。
- ・ 経営の安定化により常時雇用者5名を確保している。

## 4 成功の要因

- ・ 農林水産大臣賞を受賞するなど「梅肉ポーク」の品質が認められたこと、また、法人化により取引先や消費者からの信用度が高まり、経営が安定した。
- ・ 作業の役割分担や豚の育成環境を整えることで、できる限り病気を外部から持ち込まないよう最善の注意を払った。
- ・ 自社での加工品の製造・販売（スーパー、デパート等との契約販売や市場販売）に取り組んだ（6次産業化）。

## 5 今後の経営改善の方向

- ・ 今後は、生産コストを削減することが重要と考えており、その一つとして、肥育を他の畜産農家に委託し生産することも検討している。
- ・ 生産コスト面では、現在、パンを購入して飼料と配合することで飼料代を抑制しているが、外部から購入する飼料代のウエイトが高いことから、さらに飼料用米生産農家との連携も図っていききたい。
- ・ 海外への輸出など“攻めの農業”も検討しているので、これら関連情報の入手に努めたい。



△ 商品の一例

【天草梅肉ポーク（株）ホームページ】

<http://www.bainiku-pork.com/>